

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第2区分

【発行日】令和6年1月4日(2024.1.4)

【国際公開番号】WO2023/008308

【出願番号】特願2023-538480(P2023-538480)

【国際特許分類】

H 0 1 L 2 1 / 3 3 8 (2 0 0 6 . 0 1)

H 0 1 L 2 9 / 0 6 (2 0 0 6 . 0 1)

H 0 1 L 2 1 / 2 8 (2 0 0 6 . 0 1)

H 0 1 L 2 9 / 4 1 (2 0 0 6 . 0 1)

H 0 1 L 2 9 / 4 1 7 (2 0 0 6 . 0 1)

H 0 1 L 2 9 / 4 2 3 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【 F I 】

H 0 1 L 2 9 / 8 0 H

H 0 1 L 2 9 / 8 0 M

H 0 1 L 2 9 / 0 6 3 0 1 F

H 0 1 L 2 1 / 2 8 3 0 1 B

H 0 1 L 2 9 / 4 4 Y

H 0 1 L 2 9 / 5 0 J

H 0 1 L 2 9 / 5 8 Z

20

【手続補正書】

【提出日】令和5年11月27日(2023.11.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0116

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0116】

30

図15においては、上記の第1開口部201aの中央を通りz軸と平行な対称線L1が示されている。第2バリア層402bの形状は、この対称線L1を軸として、例えば図15が示す断面図において、線対称でない。この場合、第2バリア層402bでは、第1開口部201aの中央からソース電極301へ向かう方向への延伸長と、当該中央からドレイン電極302へ向かう方向への延伸長と、が異なる。なお、当該中央からソース電極301へ向かう方向とはx軸負方向であり、このx軸負方向への延伸長とは対称線L1からソース電極301側の第2バリア層402bの端部までの長さである。また、当該中央からドレイン電極302へ向かう方向とはx軸正方向であり、このx軸正方向への延伸長とは対称線L1からドレイン電極302側の第2バリア層402bの端部までの長さである。このように、第1バリア層401aと第2バリア層402bのうち少なくとも一方(ここでは、第2バリア層402b)では、第1開口部201aの中央からソース電極301へ向かう方向への延伸長と当該中央からドレイン電極302へ向かう方向への延伸長とが異なる。これにより、フィールドプレート電極502の構造設計自由度が向上する。

40

50